

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070800869		
法人名	(株)エレガンス福岡		
事業所名	グループホーム愛・あい		
所在地	福岡市東区名島3丁目29-5 〒813-0043 (電話) 092-663-8403		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年9月5日	評定確定日	

【情報提供票より】(平成19年8月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 1 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	9 人 常勤	6 人 非常勤	3 人 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2,3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000-36,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300 円程度	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	帰輝会病院、松崎クリニック、香椎療養所、八木病院、安川皮膚科、白本歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

現代表者が福祉に強く関心を持たれ、また代表者の父が認知症となり、家族で世話をしていくことの大変さを身を持って体験されたことでグループホームの必要性を認識し、開設した3階立てのホームである。1階は、デイサービスで2,3階がホームとなっている。家庭的な雰囲気の中、散歩や買い物、食事や入浴など、入居者一人ひとりの生活ペースを大切に、尊厳とプライバシーに配慮しながら、「ゆったり」と寄り添うケアに取り組んでいる姿勢が見受けられた。地域交流として入居者・職員ともに地域夏祭りなどへの参加や地域商店街への買い物、地域住民のホーム行事への参加など、地域との交流が積極的に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を踏まえて、運営推進会議での説明やカンファレンス時に協議を行うなど、質の向上へ向け取り組んでいる。前回の外部評価を受けて、入口の施設名表示や、1階エレベーター付近の照明の取付け、ホームへの入りやすい雰囲気作りの工夫などの改善が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) カンファレンス時に自己評価の意義を説明し、自己評価を全職員で行なうなどの取組みがある。今回、自己評価を行うことで、利用者ケア等に対する気づきを生み出す結果へと繋がっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 家族、自治会長、民生委員、老人クラブや地域包括支援センター職員の参加により、2ヶ月毎の運営推進会議を開催している。運営推進会議時に、グループホームへの理解の働きかけや地域との相互交流、災害時の地域への協力の呼びかけなど具体的な取組みがみられる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面会時の声かけや運営推進会議を活用した働きかけ、半年毎の家族会で家族の意見や思いを表出するための取組みがある。「ホームだより」を毎月発行している。また、訪問が少ない家族には「ホームだより」と一緒に、入居者ごとの状況や暮らしぶりを伝える「生活状況報告書」を送付し、さまざまな機会を捉えて家族の意向や意見を出していただくような工夫がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者の地域夏祭りなどへの参加や地域商店街への買い物、ホーム職員が地域委員として地域イベントへの参加、地域住民のホーム行事への参加など、地域との交流が積極的に行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなったことを受けての、理念の 再検討まではなされていないものの、もともとの理念 が、地域との関係づくりが重視されたものであり、地 域の商店街を利用するなどの取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り後に理念を唱和している。毎月のス タッフ会議において理念を照らし合わせながらケアの 場面を通じて気づいたことを職員間で話し合うなど、 理念の浸透を図る取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	入居者・職員ともにの地域夏祭りなどへの参加や地 域商店街への買い物、地域住民のホーム行事への 参加など、地域との交流が積極的に行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	職員全員で自己評価を行い、検討する取組みがあ る。前回の外部評価結果は、運営推進会議やスタッ プ会議で説明を行い、入口の施設名表示や、1階エレ ベーター付近の照明の取付け、ホームへの入りやす い雰囲気作りの工夫など、スタッフ会議で改善につ いて協議するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加により、2ヵ月毎の運営推進会議を開催している。運営推進会議で現在の取り組み内容等について報告し、運営推進会議のメンバーのホーム見学が行われるなどの取組みが見られる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの職員の参加があり、地域包括支援センターとのかかわりを通して行政との連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ会議時に職員へ制度の説明を行う取組みがある。家族に対しては、制度のパンフレットを配布し、情報提供を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時の声かけやその都度の連絡、毎月のホームだよりの発送、訪問が少ない家族へは入居者一人ひとりの生活状況報告書をホームだよりと同封し、日常の様子や状況の報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時の声かけやその都度の連絡、家族会を活用した働きかけなど、家族等の意見や意向を出していただくための工夫がある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動の際も少しずつかかわりを持たせる等、自然に顔なじみのスタッフとの関係づくりの配慮がある。新規スタッフ採用時は、新旧スタッフ二人一緒の勤務体制を行い、少しずつ入居者と馴染みの関係を作るような工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用において、何らかの制限は設けていない。性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、やる気を持っていることを重視した採用がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常のケアを通して言葉使い等で気づきがあればスタッフ会議で話し合っているが、ホームとして人権尊重などに対する勉強会や講話への参加などの取り組みは今後の課題である。		認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要と思われる。スタッフ会議や行政が行なう人権啓発研修参加等への取り組みを期待したい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の開催情報を提供し参加を募ったり、管理者からの人選により参加するなど、外部研修参加への機会がある。また、研修参加後は、カンファレンス時に報告を行い知識の共有に努めている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や他のグループホーム見学を通して情報交換を行うなど、質の向上への取り組みがある。他のグループホームとの交流を通じてケア現場の問題等について協議する取り組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者と計画作成担当者が病院や自宅を訪問し、また、ホーム見学や体験入居を通じ、馴染みの関係づくりへの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話やかかわりを通じて、昔の言葉や昔の制度について入居者から教わったり、ラッキョウ漬けや梅干しの作り方を教わるなどの関係が築かれている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりのなかで入居者一人ひとりの思いや意向を把握し、家族との面談等を通じて家族の思いや希望の把握に努めている。把握した内容をセンター方式の様式を一部採用し、記入するなど職員間での情報共有への取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	予めの主治医の意見の聞き取りや日々のかかわりの中から入居者や家族の意向の把握に努め、担当者会議にて全職員で協議し、介護計画に反映させるなどの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況により、6ヶ月毎及びその時々の変化に合わせて評価を行い、担当者会議にて全職員で協議し、介護計画の見直しと再作成がある。また、全職員参加のカンファレンスが毎月開催されている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム協力医及び入居者のかかりつけ医との連携や病院受診への通院介助、地域住民の高齢者介護等の相談に応じるなど、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1～2週間に1度ホーム協力医の往診がある。希望する医療機関への受診は、基本的には家族で対応してもらっているが、家族対応が難しい場合はホームにて対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意向書を作成し、家族会にて事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。状態の変化があるごとに、家族・主治医・管理者などを交えて協議し、方針を共有するなどの取り組みがある。		できるだけ早い時期から話し合いの機会を作り、家族や関係者全体の方針の統一を図り、内容を文章化して職員間で共有するなどの支援体制づくりに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせての会話や個々の入居者 に合わせた声かけや対応がなされており、入居者へ のトイレ誘導や声かけなど、入居者のプライバシーを 尊重した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、入浴や食事のとり方など、入居者 一人ひとりのペースを尊重した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	テーブル拭きや包丁を使っての食材の皮むき、味付 けや食事の盛り付けなど、その時にできることを入居 者と職員と一緒に楽しみながら行なっている。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であり、入浴するタイミングや時 間など、入居者の希望に沿った支援がある。入浴の 拒否傾向がある入居者へは、毎日の声かけから始め るなど、無理強いせず根気よくかわり、入浴が楽し めるような取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者の状況を把握した上で洗濯物たたみや洗 いもの、拭き掃除、雑巾縫いなど入居者が持 っている力やできることを引き出し、柔軟な 支援を行なっている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の買い物や散歩、入居者の希望による その都度の外出や毎月2回の計画立てた外 出や山笠見学など、機会を見つけては、積 極的に外出する取り組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、入居者の様 子を良く観察しており、見守りや入居者 と一緒にスタッフが出かけるなどの安全 面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を 得られるよう働きかけている	年2回、1階のデイサービスセンターと 合同で避難訓練が行われている。防火管 理者であるホーム職員が消防署から防 災に関する情報を収集している。日々 の地域交流や運営推進会議を通じて協 力依頼や応援体制への働きかけがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	メニューは、栄養のバランスを考慮し入 居者の希望を取り入れながら入居者と 相談の上で決めている。毎食の食事摂 取量をチェックし、摂取カロリー等の 把握を行っている。水分摂取への声か けや水分チェックの必要な入居者へ は、水分摂取量の把握や確保に努め ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、デイサービスと共有であり、外からの採光に もよく配慮された入口である。ホームは2階と3階で入 居者に合わせた温度管理がされ、リビングや廊下には 季節の花や楽しかったホーム旅行の写真が飾られ たりと居心地の良い環境づくりへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居室には、寝具や、ベッド、TV、タンス などの馴染みの家具や写真などの思い出の品などが 持ち込まれ、入居者の希望や今迄の生活習慣に合わ せて、畳敷きの居室作りへの工夫がなされるなど、入 居者一人ひとりに応じた居心地の良い居室作りへの 配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号